

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【公表番号】特表2003-531232(P2003-531232A)

【公表日】平成15年10月21日(2003.10.21)

【出願番号】特願2001-576922(P2001-576922)

【国際特許分類】

C 08 F 6/16 (2006.01)  
C 09 D 5/02 (2006.01)  
C 09 D 127/12 (2006.01)

【F I】

C 08 F 6/16  
C 09 D 5/02  
C 09 D 127/12

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月17日(2008.3.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (a)非イオン性乳化剤を水性フルオロポリマー分散液に添加する工程と、(b)前記水性フルオロポリマー分散液のpH値が5未満、任意にpH値が1~3で、分散液中の蒸気揮発性のフッ素化乳化剤の濃度が所望の値に達するまで蒸留することで、蒸気揮発性のフッ素化乳化剤を除去する工程と、を含む、蒸気揮発性のフッ素化された乳化剤を水性フルオロポリマー分散液から遊離酸形態で除去する方法。

【請求項2】 (a)強い鉱酸、任意に硝酸、及び(b)陽イオン交換の少なくとも1つにより、前記pHが設定される、請求項1に記載の方法。

【請求項3】 (a)前記水性フルオロポリマー分散液が、フルオロポリマーを生じる重合プロセスから得られた未精製分散液である、(b)フルオロポリマーがフルオロエラストマーであり、任意にフルオロエラストマーが150,000未満の分子量を有する、の少なくとも一方を満たす、請求項1に記載の方法。

【請求項4】 (a)水が蒸留によって分散液から除去され、かくして分散液の濃度を上昇させる、(b)蒸気揮発性のフッ素化乳化剤の前記除去に引き続き、前記水性フルオロポリマー分散液のpHを7より大きくする、(c)フッ素化乳化剤の除去に先立って水性フルオロポリマー分散液がアップ濃縮される、のうち少なくとも1つの工程をさらに含む、請求項1~3のいずれか1項に記載の方法。

【請求項5】 請求項1~4のいずれか1項に記載の方法によって得られた水性フルオロポリマー分散液を用いて基材を被覆する方法。

【請求項6】 基材を請求項1に従って調製されたフルオロポリマーと接触させる工程を含み、任意に基材が金属又布帛である、基材を処理して、非粘着性、耐候性、および不燃性から成る群より選択される特徴をそれに提供する方法。